

令和6年2月5日

## 京口門だより No. 124

相変わらず寒さが続いたり暖かかったりで、風邪やインフルエンザ、新型コロナにかかるともいわれています。また能登半島地震の被害もなかなか回復には時間がかかるようです。節分会、立春と春のおとずれを迎えましたが、餘寒というのか春寒というのか暖かさを心待ちにする心持です。「春寒し水田の上の根なし雲」(河東碧梧桐)

風邪をひくと咳になることがしばしばみられますが、普通に鎮咳剤や去痰剤を飲んでもなかなか治りにくいという感覚をお持ちではないでしょうか。現代医学で咳を治す薬というのはあるようで、なかなか治らず1ヶ月以上長引くことをよく耳にします。咳にもさまざまな原因があって、単に風邪からくる急性気管支炎ばかりでなく、肺炎や重篤な感染症(結核など)による咳、あるいは喘息にともなう咳、慢性気管支炎や間質性肺炎などいろいろな肺炎による治りにくい咳もあります。どのようなタイプの咳か胸部X線検査、CT、細菌検査、血液検査などがなされますが、あんがい胸部の聴診で肺の呼吸音や異常な音を聞くことが重要な手掛かりになります。聴診器は伊達に医者がぶら下げているものでもありません。

一方、漢方医療では何の原因で起きている咳か診断することを怠ってはなりません。咳や痰の音や出方によって多くの薬が準備されています。例えば鼻水やクシャミをとめないえずくような咳、咽が刺激されてイガイガして咳込む咳、咳をすると胸が痛くなったり、お腹にこたえるような咳、横になると激しくなる咳、咳が長引き顔がノボセたようになる咳、いったん出始めるとなかなか治りにくい咳、発熱をともなう咳、朝方におおい咳、夜になると出る咳などなど、その咳の仕方とともなう症状によってさまざまなタイプの咳薬があります。つまり通り一片の鎮咳剤や去痰剤や抗生剤ではなく、その人その人によって咳の特徴をつかんで治療にかかるとのことです。ですから単に咳が出ますということでは、漢方治療ははじまらないのです。詳しく咳の状態をお聞きしてはじめて治療薬が決まります。

咳もひどく治らなくなると麻薬系の鎮咳剤を処方されることがあります。ある妊娠中の女性が風邪から咳が長引き、この麻薬性の鎮咳剤を処方されそうになり、私どもの柴陥湯加味という漢方薬で治った例があります。咳で困れば一度漢方相談されることが良いと思います。

